

医科研病院だより



第66号

発行：東京大学医科学研究所附属病院

令和7年1月15日

〒108-8639 東京都港区白金台4-6-1

代表電話03-3443-8111

ホームページ <http://www.h.ims.u-tokyo.ac.jp/>

【CONTENTS】	新年のごあいさつ	1
	すこやかカフェ 先端緩和医療科 診療科長着任のご挨拶	2
	災害医療における地域・国立病院間での協働	3
	なんでもひろば クリスマスコンサートを開催	4

新年のご挨拶

病院長 藤堂 具紀



明けましておめでとうございます。病院長を兼務しております藤堂具紀です。お陰様で病院長として二回目の新年を迎えます。

新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に移行してから二年が経ち、世の中では、三密とかマスク着用とか手指アルコール消毒とかいった飛沫感染対策をすっかり忘れてしまったかのようです。医科研病院でも呼吸器感染の

入院患者数は激減しました。しかし、昨年末には全国のインフルエンザ感染者数が未曾有の上昇となっています。コロナ禍において、我々は、飛沫感染対策をしっかりとっていれば、インフルエンザの流行は防げることを、身をもって体験したはずですが、十分にその経験が生かされていません。当院においても、不織布マスク着用を今しばらく継続する方針です。

コロナ禍で学習したことは、感染対策のみではありません。会議は可能な場合は対面からWeb方式へと切り替わり、実際に出勤しなくてもリモートで仕事を行って、時間を効率よく使う術を学びました。昨年4月から「医師の働き方改革」が実施され、他の職種と同様、医師も長時間働いてはいけな、ということになりました。当院も例外ではありません。だからといって、医師や医療従事者の定員数を増やしてもらえないわけではありません。働く時間を減らしながら医療レベルは下げない、という解決策のない国の方針は、医療現場に課せられた無理難題でもあります。コロナ禍で培った効率性で、何とか乗り切ろうとしております。医科研病院は5(ア)

(イ)年前から東大病院と連携した機能強化プロジェクトを実施しており、詳細は省きますが、要は、研究病院の高度な機能を地域医療に還元して、より活発な病院として活用する、ということです。その趣旨に沿って、一昨年は消化器内科に新たに池松教授をお迎えし、消化器がんの内視鏡的粘膜下層剥離術などの先進的医療技術を消化管治療に導入し実績を上げてきています。また昨年4月からは、麻酔科に坊垣教授をお迎えし、比較的手術リスクの高い患者でも手術が行えるようになりました。5年前に手術ロボット(ダビンチ)を導入して以来、外科および泌尿器科におけるロボット手術件数は年々増加傾向にあります。麻酔や内視鏡体制の整備、腫瘍内科や緩和医療などによるバックアップによって、相乗的な医療件数の増加が期待される所です。更に当院では、がんのウイルス療法を開発を推進しており、令和3年に当院脳腫瘍外科で開発したウイルス療法薬(G47Δ、製品名デリタクト注)が悪性神経膠腫(脳腫瘍)を対象として承認されて保険診療が開始されて以来、脳腫瘍外科はフル回転で、国内外からウイルス療法を希望する患者を受け入れています。昨年12月には先端緩和医療科の伊藤哲也特任講師が診療科長に就任し、また本年2月と4月には循環器内科と糖尿病代謝にそれぞれ常勤教員が加わります。昨年4月には小粥看護部長が昇格・就任し、看護部の改革が推し進められています。本年当院は益々活性化する予定です。

当院は、国内唯一の国立大学の研究所附属病院として、最先端の科学技術を用いて革新的医療を開発することをミッションとしています。革新的医療開発を推進するには、標準とされる医療の技術にも長けている必要があり、当院は高い医療水準を維持し続けております。今後も研究所附属病院だからこそ推進できる先端医療と地域医療の両輪体制で、患者の立場に立った医療を行って参ります。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



すこやか・カフェ



先端緩和医療科 診療科長着任のご挨拶 先端緩和医療科 診療科長 伊藤 哲也

このたび、先端緩和医療科・診療科長を拝命いたしました伊藤哲也です。「緩和医療って何だろう?」という視点から、少しでも緩和医療の世界を紹介させていただこうと思います。



“緩和医療”を英語では“Palliative Medicine”と表現します。この“Palliative”という単語は、英語を母国語とする方でも一般には知らない方が珍しくないのかもしれませんが。ネイティブの方との会話のなかで“それ、何のこと??”とかえて聞き返されてしまうこともあります。そこで、これはどういう言葉なのかな、と語源を探してみたのですが、どうやら外套やオーバーコートを意味するラテン語の“Pallium”という単語にそのルーツがあるようです。身体を優しく包み込んで冬の厳しい寒さから守る、そのような穏やかなニュアンスが“Palliative Medicine”という言葉には込められているのかもしれませんが。

緩和医療について、WHO (World Health Organization: 世界保健機関)は“患者さんやその家族のQOL (Quality of Life: 生活の質)を向上させるためのアプローチである”と定義づけています。この目的を達成するために、疾患そのものに関連した身体症状や治療に伴う副作用、疾患と向き合うことで生じる心理的葛藤、またご家族に生じる様々な負担に気づき、対応することが求められます。国内ではこれまで主にがん患者さんを対象に緩和医療の(ア)

(イ)体制が整備されてきましたが、この取り組みは疾患を問わず、心不全や慢性呼吸器疾患、神経疾患などの患者さんにも必要なものです。また、このような問題は病期を問わず生じます。例えば抗がん剤治療中の患者さんも含めて、早期から緩和医療の対応を進めていくことが大切です。このような多岐に渡る問題に向き合うために、多くの専門職の連携が緩和医療の基本となるということも自ずとご理解いただけることでしょう。また、緩和医療に限らず医療の基本はその根拠となるエビデンスにあり、この構築のために研究活動を展開し、そこで得られた新たな知見を発信していく必要があります。

東京大学医科学研究所附属病院の先端緩和医療科では、疾患・病期を問わずエビデンスに基づいた緩和医療を提供するために臨床・研究に尽力しております。ぜひ、ご支援のほどをよろしくお願い申し上げます。



災害医療における地域・国立病院間での協働 病院災害対策委員会

医科研病院は、東京都の災害医療支援病院として指定され、専門医療、慢性疾患の対応、港区の地域防災計画に定める医療救護活動を行うことが求められています。

令和6(2024)年10月24日(木)、港区では、大規模災害が発生したことを想定した「令和6年度港区災害医療合同訓練」が実施されました。

医科研病院は、港区みなと保健所および区内の指定医療機関と被災・救護情報を共有する通信訓練に参加し、敷地内においては、トリアージメントの設営訓練を行いました。トリアージとは、傷病者の緊急度や重症度に応じ、応急処置の優先度や搬送順位を決定することで、災害現場で最も重要な役割のひとつです。訓練には、看護部を中心に約20名の医療スタッフが参加しました。

保健所と指定医療機関を交えた会合は定期的で開催されています。合同訓練の成果や課題についても共有され、地域全体で災害医療の連携強化に努めています。

こうした災害医療における「協働」は、地域社会においてのみ(ア)

(イ)ならず、国立大学病院間でも行われています。

令和6(2024)年12月24日(木)、医科研病院は「関東甲信越地区国立大学病院災害対策相互訪問事業」により、東京科学大学病院(旧医科歯科大病院)とともに山梨大学医学部附属病院(山梨大病院)を訪問しました。この事業は、国立大学病院が互い災害対策能力を確認しあい情報の蓄積及び共有を進める中で、国立大学病院全体での底上げを図り、各病院が災害発生時の継続的な医療提供を可能にすることを目的としています。令和5年(2023)年には、医科研病院が山梨大病院と医科歯科大病院の訪問を受けています。

訪問した山梨大病院は、地震などの災害時に負傷者の救援・救護にあたるほか、他の医療機関へ医師や看護師などを派遣する「災害拠点病院」です。能登半島地震でも発災直後から医療支援を続けられていました。

山梨大学病院の災害医療に直接携わるスタッフの強い使命感と熱意、スキルの高さには、深い感銘を受けました。この訪問で学び感じたことを、医科研病院の災害対策の強化に結びつけていきたいと考えています。



港区災害医療合同訓練／医科研病院トリアージメントの設営訓練



国立大学病院災害対策相互訪問事業／山梨大学医学部附属病院

なんでも・ひろば



クリスマスコンサートを開催

2024年12月17日(火)に院内で「医科研クリスマスコンサート」を開催いたしました。

医科研病院では、新型コロナウイルス感染症対策のため公開イベントをしばらく控えて来ました。今回は「第112回市民公開医療懇談会」にあわせた企画で、院内でのコンサート開催は6年ぶりになります。

第1部となるクリスマスコンサートのピアノ演奏者、第2部の市民公開医療懇談会「前立腺癌診断・治療最前線」の講師は、ともに泌尿器科科長の高橋さゆり特任准教授です。

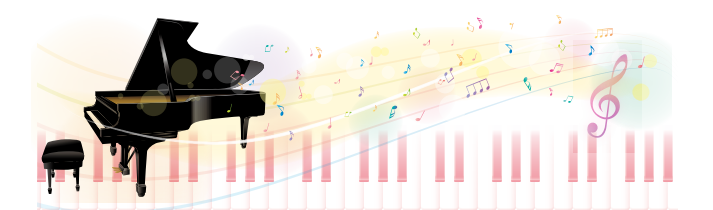
会場となった病院A棟8階のトミーホールは、通院・入院中の方々やご家族、病院・研究所の職員などで満員になりました。

藤堂病院長のユーモアを交えた挨拶につづき、全国的なコンクール入賞や演奏活動の実績を持つ高橋特任准教授の演奏が始まります。モーツァルトのピアノソナタk330ほか予定されていた5曲が演奏されたのち、鳴りやまない拍手に応えるかたちで、ショパンの「英雄ポロネーズ」が披露されコンサートは終了しました。

素敵な音色とあたたかい空気につつまれた会場では、つづいて市民公開医療懇談会がはじまります。医科研病院でも実績を上げているロボット手術(da Vinci Xiシステム)も含めた最先端の前立腺癌の診断と治療について、高橋特任准教授から分かりやすく説明がされました。

「職員の皆様の協力のもとX'masコンサートが無事開催できました。百名以上の方にご来場頂き盛大な拍手と温かい言葉の数々に胸が一杯になりました。今後も医科研の患者様のために医療技術を磨いて行きたいと思っております(高橋特任准教授)。」 (ア)

(㊄) クリスマスコンサートを通して、多くの皆さまと温かな思いを共有することができました。医各県病院では、これからも地域の方々と協力して交流していけたらと考えております。



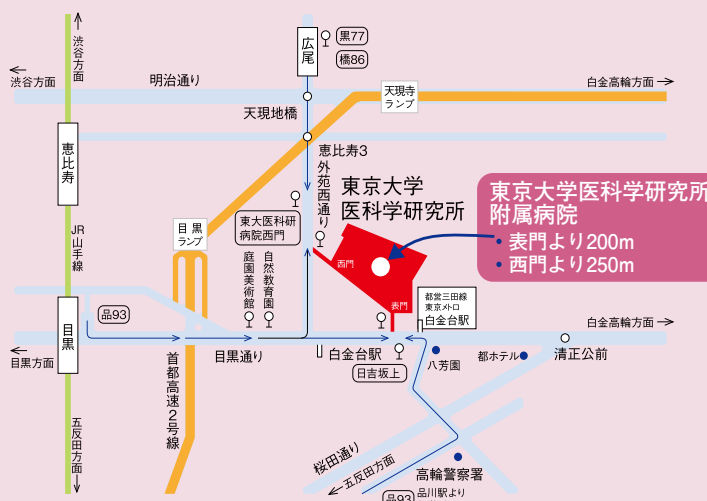
◆病院からのお知らせ◆

- 臨床検体の取扱いにつきまして
当院での保存・追加採取検体を用いた臨床研究名をお知りになりたい方は
<http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imsut/jp/research/sample-information.html>
をご覧ください。

東京大学医科学研究所附属病院・ご利用案内

診療科

内科(総合、血液腫瘍、感染症、アレルギー・免疫、消化器)
外科(一般、腫瘍、消化器、乳腺)、整形外科(関節)
脳腫瘍外科、放射線科、麻酔科、遺伝相談



外来診療日

月曜日～金曜日(祝日および年末年始を除く)

診療受付時間

8:30～11:30(初診・再診)

12:30～16:00(再診のみ)

※予約時間の15分前までに受付にお越しください。

(確実にご受診いただくために、ぜひ予約をお取りください)

予約専用電話(予約受付および変更)

診察: 03-5449-5560

検査: 03-5449-5355

受付時間 8:30～17:00(外来診療日のみ)

アクセス

- 東京メトロ南北線・都営地下鉄三田線で「白金台駅」下車
- JR山手線目黒駅東口から都バス品93大井町競馬場行で「白金台駅」下車、あるいは都バス黒77千駄ヶ谷行か橋86新橋駅行で「東大医科研西門」下車、または駅より歩いて約15分、タクシーで約5分(1メーター)
- JR品川駅から都バス品93目黒駅行で「白金台駅」下車
- 東京メトロ日比谷線広尾駅から都バス広尾橋から黒77または橋86目黒駅行で「東大医科研病院西門」下車